

報 文

父親・母親の言葉かけと青年期女子の自尊感情との関連 — 影響を及ぼしているのは父親、それとも母親？ —

小 川 由希子*¹ 山 田 智 世*² 杉 山 里 美*³
上 岡 美 紀*⁴ 平 田 裕 美*¹

Expressions of Fathers and Mothers and Their Affect on Daughters' Self-esteem — Which has the Greater Influence, Father or Mother? —

Yukiko OGAWA*¹, Chiyo YAMADA*², Satomi SUGIYAMA*³,
Miki KAMIOKA*⁴, Hiromi HIRATA*¹

In this study, we administered an anonymous questionnaire survey to college women in late adolescence (N=156, Mean=19.64, SD=1.91). We examined the relation of their feeling of self-esteem with the cooperation of their fathers and mothers in their parental cares as seen from the point of view of the adolescent women; the use of warm words from parents, parental affirmation, and their own self-affirmation. The result of path analysis revealed that the women's feelings of self-esteem are related with their recognition of being accepted quite proportionally to their affirmative images of their mothers' parental attitude and leads to their own self-affirmation reflected in feelings of self-esteem. Furthermore, the relation between the women's self evaluation and their feeling of self-esteem confirmed that their congeneric mothers had a far greater influence on them than we imagined. On the other hand, it was shown that good parental attitudes from their fathers well the good cooperation between their fathers and mothers in their parental cares is essential for the affirmative evaluation of their mothers' parental attitude.

It can be said that this paper has successfully proven that the influence of *both* mothers and fathers, not just the influence of one of them, is important to enhance the feeling of self-esteem of adolescent women.

I. 問題と目的

日本の子育て形態には、「父親は外、母親は内」という父親不在の養育を容認する風潮があり、家庭における父親は、母親を通じて間接的に子どもに関わる存在として認識されていた状況がある。しかし、「忘れられていた子どもの発達へのもう一人の貢献者¹⁷⁾」として、父親が記されて以来、養育者としての父親の家庭における役割やあり方が見直されてきた。母親と同じように、子どもの養育者としての父親の役割が社会全体から必要とされていると言える。背景には、共働き家庭の増加、出産後

も仕事を継続する女性の多様なライフスタイルの変化もあるだろうが、一方で、多重役割理論の立場から、女性のストレスや自尊感情、抑うつ感に関する報告が散見される。心理的適応性の検討には、自尊感情 (self-esteem) や抑うつ感 (depression) の指標が用いられる傾向にあることから、親の養育、親と子どもの関係性より、子どもは自尊感情が低いほど、抑うつ感を感じやすく、孤独に陥りやすいことなどが理解されている (Krishnakumar, A. Buehler, C. & Barber, B.K.¹⁶⁾ Roberts, J.E. & Monroe, S.M.²⁴⁾ Roberts, J.E. Gotlib, I.H. & Kassel, J.D.²³⁾)。

*¹ 発達臨床心理学研究室, 女子栄養大学: Laboratory of Developmental Psychology, Kagawa Nutrition University

*² 富山県 滑川市立北加積小学校: Kitakazumi Elementary School, Toyama

*³ 静岡県 長泉町立長泉小学校: Nagaizumi Elementary School, Shizuoka

*⁴ 栃木県 佐野市立閑馬小学校: Kanma Elementary School, Tochigi

そこで、本研究では、疾風怒濤の時期と言われる青年期の子どもの心理的適応性のひとつとして、他人との比較により生じる感情だけではなく、自分自身を肯定的に認めたり、評価したりすることを意味する自尊感情に着目し、この感情に直接影響する要因・媒介する要因を仮定することにより、その因果関係を明らかにする。この関係性を検討するにあたり、先行研究では、女子特有の関係性の維持や、同性の親による影響、成人後の女子とその母親との現在、及び過去の関係と抑うつ傾向、自尊感情との関連、さらに、同性、あるいは異性の親による養育行動と青年期の子どもの心理的側面との関連が確認されている（平田⁴⁾：伊藤¹⁰⁾：北村¹⁵⁾：Skultey, K.M. & Whitbourne, S.K.²⁶⁾：山岸³¹⁾）。しかし、仮定された要因が、どのように影響するのか、その経路についての具体的な知見は明らかではない。本稿では、青年期女子に焦点をあて、親については、「親」とひとくくりにせず、同性の親である「母親」、異性の親である「父親」からの影響を要因として分析する方向で進める。

1) 父親・母親の養育

伊藤¹²⁾は、親の関係が良好であれば、青年期女子の自尊感情は高くなると述べ、Seibel & Johnson²⁵⁾も、青年期の不安感に注目し、父親、母親の心的統制が強ければ強いほど、青年の不安感が高まると示している。長津²⁰⁾は、中学生とその父親、母親を対象にした調査により、中学生の家族への情緒が自尊感情に大きく影響していたと報告している。ひきこもりや不登校に関する事例検討においても、対象者である青年期の子どもや成人後の回想により、自己をどのように受け止めているのかという視点から、対象者の自尊感情の低さと、親の養育との「何らかの目に見えない関係」についての指摘がなされている（横湯²²⁾、森田¹⁹⁾）。これらの見解から、青年期女子の自尊感情への影響要因として、個々の要因を仮定していく必要がある。

父親・母親へのイメージ

森下¹⁸⁾は、子どもの親への評価が子ども自身の発達に影響するという見解を述べている。福田・菱川・二宮・花木・西村・向井・高嶋・垣内・荒井・奥野・黒木⁶⁾による、小学3～6年生と担任教師を対象にした調査では、母親へのイメージが肯定的な子どもは自己イメージも肯定的であった。また、母親がイライラしているなど、その不安感が高いときは、高校生も同じように不安感が高いことが示されていた（平田⁵⁾）。これらより、母親と子どもの「以心伝心」的なつながりは否めない。「母子の抑うつ同時性」についての知見（Zahn-Waxler³⁴⁾、菅原²⁷⁾）からも、父親・母親の養育態度へのイメージは、子どもの自尊感情に何らかの影響を及ぼすと予測される。

父親・母親の子育てにおける協力

氏家・二宮・五十嵐・井上・山本・島²⁹⁾は、夫婦間葛藤と中学生の抑うつ症状との関連を、菅原・八木下・詫摩・小泉・瀬地山・菅原・北村²⁸⁾も、夫婦の愛情関

係と子どもの抑うつ傾向との関連を明らかにしている。さらに、養育を行動という側面から考えると、Crawford, Cohen, Midlarsky, & Brooks¹⁾は、夫婦間葛藤は親の冷たい養育態度に反映され、それは女子にのみネガティブな影響を及ぼしていたと報告し、Kelly¹⁴⁾は、夫婦間葛藤がある父親は、子どもに冷たい養育行動をとるだけではなく、父親としての役割や関わり自体を放棄していたと述べている。安原³³⁾による、大学生の肯定的な家族機能認知は、大学生の精神的健康を高めていたという示唆からも、父親、あるいは母親の、協力して子育てをしているという考えは、子どもへの養育行動を左右する重要な要因であると思われる。これらの見解より、積極的、拒否的な養育は、結果として、子どもの自尊感情に何らかの影響を持つと推測される。

父親・母親からの言葉かけ

幼少期の頃から、多くの時間を共にする父親・母親からの言葉かけは子どもの自尊感情に大きく影響すると予想される。葛西・永尾¹³⁾の中学生とその父親、母親を対象にした調査では、親が後悔するような子育てをしたと感じている場合、子どもの自尊感情が低くなっていたと報告している。親自身が後悔するような子育てをしたという気持ちや、子どもへの言葉かけに現れていたのではないかと考えられる。そのため、子どもの考えは親の言葉や態度に影響されやすいと思われる。青年期の自尊感情の形成過渡において、親の言葉かけを受け止める側に立つ子どもの認知は、見落とせない要因であることが仮定される。

2) 親からの評価・自己への評価

青年期における自己への評価として、平石²⁾は重要な他者からの評価との関連に言及し、市毛・大河原⁷⁾は、1981から1999年の先行研究から、「良い子」を「本来持っているエネルギーを自分自身のために生かしている子」と「自分の感情よりも周囲からの期待を重視して、評価が高くなるように振る舞う子」と定義し、矢吹³⁰⁾は「良い子」について「弱音を吐かない子どもや、わがままやグチを言わない子ども」とまとめている。

いずれも、親から肯定される、すなわち「ほめられる子ども（良い子）」と子ども自身が考える「ほめられる子ども（良い子）」像には、共通点と相違点が見られるようである。ゆえに、親の、または子ども自身の、どのような考えが子どもの自尊感情に直接影響するのかという視点が、本研究の課題においても重要である。親が子どもである自分を肯定してくれているのかどうかという考えが直接、子どもの自尊感情に影響しているのか、それとも子ども自身の自己への評価が子どもの自尊感情に影響しているのか、この点については検討する余地がある。

ここまでの議論より、親の養育として、青年期女子のもつ父親、母親の子育てにおける協力、養育態度へのイメージ、言葉かけ、そして、親からの肯定、自己への肯定についての考えと自尊感情との因果関係を明らかにす

る必要があると思われる。本研究で検討するモデルは、次の通りである（Figure 1）。

青年期女子の自尊感情には、

- 仮説 1. 父親・母親の子育て協力が父親・母親の養育態度へのイメージを媒介し影響する。
 仮説 2. 父親・母親の子育て協力が父親・母親の拒否的態度を媒介し影響する。
 仮説 3. 父親・母親の拒否的態度が父親・母親の養育態度へのイメージを媒介し影響する。
 仮説 4. 親からの肯定、自己への肯定が影響する。

II. 方 法

調査協力者

東京都と埼玉県の大学生、大学院生 188 名（男性 25 名、女性 163 名、 $M=19.64$ $SD=1.91$ ）。実施期間は 2009 年 1 月であった。

手続き

東京都と埼玉県の大学生、大学院生に、講義時間内に質問用紙を配布し、その場で回収した（実施時間は約 20 分）。

調査項目内容

自尊感情については、Rosenberg の邦訳版（山本・松井・山成³²⁾）を用い、子どもから見た父親・母親の子育てにおける協力は、父親用・母親用に分け、平田³⁾ の配偶者との連携尺度を用いた。父親・母親の養育態度への

イメージ（以下、「父親イメージ」「母親イメージ」と示す）は、パーソナリティ認知の測定に有効な尺度（井上・小林⁸⁾）の 49 項目を用い、予備調査の結果、選択された上位 8 項目を用いた。子どもから見た父親、母親からの言葉かけについての拒否的態度（以下、「父親拒否的態度」「母親拒否的態度」と示す）は、一般的な感情を示す感情測定尺度の嫌悪感情（名取²¹⁾）を用い、予備調査の結果、選択された上位 5 項目を用いた^[1]。さらに、自己への肯定、親からの肯定を尋ねる項目^[2]を加えて、回答形式は全て 6 件法で尋ねた^[3]。フェイスシートでは、学年、性別、年齢、現在の住居形態記入欄を設け、自己申告での記入依頼をした^[4]。

III. 結 果

男子大学生 25 名、欠損値のある 7 名のデータを分析から除外し、残りの 156 名を分析対象とした。まず、逆転項目に処理を行い、次に、天井効果や床効果の判断をした（ $M \pm 1SD$ が最大値、最小値を超える項目）。結果、父親拒否的態度、母親拒否的態度は床効果を示していた。しかしながら、この変数を除去すると本研究の目的に抵触する恐れがあるので、そのまま分析に用いることにした。尺度得点は、各尺度とも下位尺度で項目数が異なるため、断りのない限り、項目平均値を下位尺度得点として検討した。各尺度の基本統計量を示す（Table 1）。

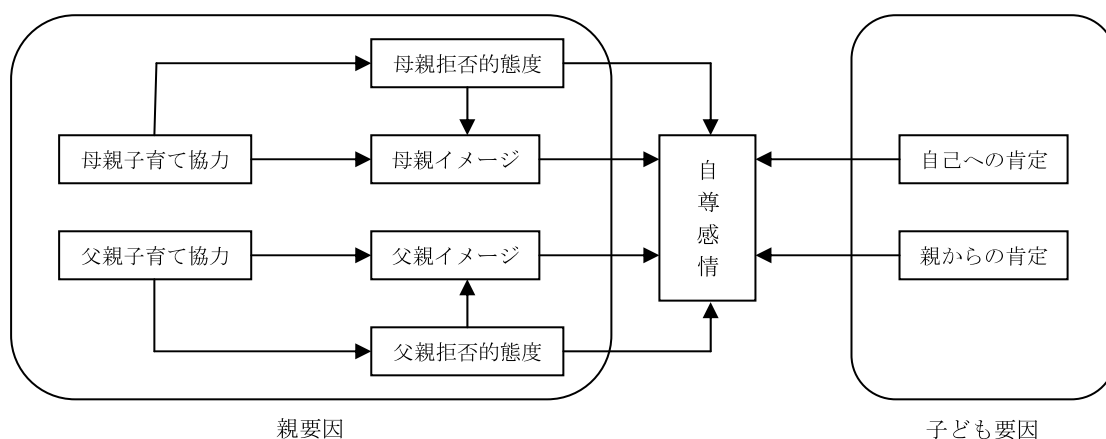


Figure 1. 本研究の予測モデル

- [1] 「あなたが日ごろ、父親／母親からよく言われる言葉について、なるべく 2 つ以上あげてください」と記述回答を求め、その直後に、「上記にあげられた言葉かけについて、あなたはどのように思っていますか。当てはまるところに○をつけてください」と記載し、6 件法で尋ねた。
 [2] 矢吹³⁵⁾ の「良い子」についての「弱音を吐かない子どもや、わがままやグチを言わない子ども」定義を紹介し、「自分は「良い子」だと思いますか」「親から「良い子」と見られていると思いますか」と質問文を提示し、6 件法で尋ねた。
 [3] 1. 全く当てはまらない／全くそう思わない 2. 当てはまらない／そう思わない 3. ほとんど当てはまらない／ほと

んど思わない 4. やや当てはまる／ややそう思う 5. 当てはまる／そう思う 6. かなり当てはまる／かなりそう思う。

- [4] この調査は、日本応用心理学会倫理綱領に従い実施した。調査協力者には、事前に文書と口頭で本研究を行う目的の説明を行い、その意思に基づいて参加の中断、あるいは拒否ができること、それにより調査協力者の不利益にならないことについての説明を行った。さらに回答されたデータ情報の秘密保持の厳守を示し、データ結果の公開に同意の意思が無い場合は表紙の欄に×の記載をお願いした。調査実施後に、日程を取り決め、在学時の研究室にて本調査に関する質問を受け付けることを黒板に板書した。

Table 1 各尺度の基本統計量

変 数	N	M	SD
自尊感情	156	29.858	3.566
母親子育て協力	156	17.442	5.257
父親子育て協力	156	16.385	5.799
母親イメージ	156	32.808	6.658
父親イメージ	156	31.735	9.386
父親拒否的態度	156	15.013	12.459
母親拒否的態度	156	13.381	12.065
自己への肯定	156	3.109	1.492
親からの肯定	156	3.506	1.470

Table 2 父親・母親イメージ

項 目	母 親		父 親	
	因子	共通性	因子	共通性
頼もしい	.926	.857	.912	.831
しっかりとした	.845	.714	.877	.770
尊敬できる	.803	.644	.897	.805
強い	.730	.533	.783	.613
活発な	.727	.529	.795	.631
陽気な	.598	.357	.723	.523
話しかけやすい	.570	.325	.759	.575
優しい	.562	.316	.771	.595
寄与率 (%) Cronbach の α 係数	47.89 .87		57.09 .89	

Table 3 父親・母親の言葉かけについての拒否的態度

項 目	母 親		父 親	
	因子	共通性	因子	共通性
そのような言い方は悲しい	.989	.978	.983	.966
そのような言い方は冷たい	.982	.965	.983	.967
そのような言い方はこわい	.979	.959	.984	.968
そのような言い方はいやみだ	.978	.956	.973	.946
そのような言い方は腹が立つ	.955	.912	.963	.926
寄与率 (%) Cronbach の α 係数	48.15 .93		48.21 .94	

Table 4 相 関

	自尊感情	母親 子育て協力	父親 子育て協力	母親 イメージ	父親 イメージ	父親 拒否的態度	母親 拒否的態度	自己への 肯定	親からの 肯定
自尊感情		.118	.121	.150 *	.163 *	-.068	-.075	.283 **	.245 **
母親子育て協力	.118		.903 **	.287 **	.695 **	.098	.012	-.037	-.068
父親子育て協力	.121	.903 **		.356 **	.721 **	.057	.012	.006	-.020
母親イメージ	.150 *	.287 **	.356 **		.395 **	-.169 *	-.175 *	.042	.175 *
父親イメージ	.163 *	.695 **	.721 **	.395 **		-.029	-.049	.082	.092
父親拒否的態度	-.068	.098	.057	-.169 *	-.029		.734 **	-.092	-.286 **
母親拒否的態度	-.075	.012	.012	-.175 *	-.049	.734 **		-.026	-.203 *
自己への肯定	.283 **	-.037	.006	.042	.082	-.092	-.026		.736 **
親からの肯定	.245 **	-.068	-.020	.175 *	.092	-.286 **	-.203 *	.736 **	

* $p < .05$ ** $p < .01$

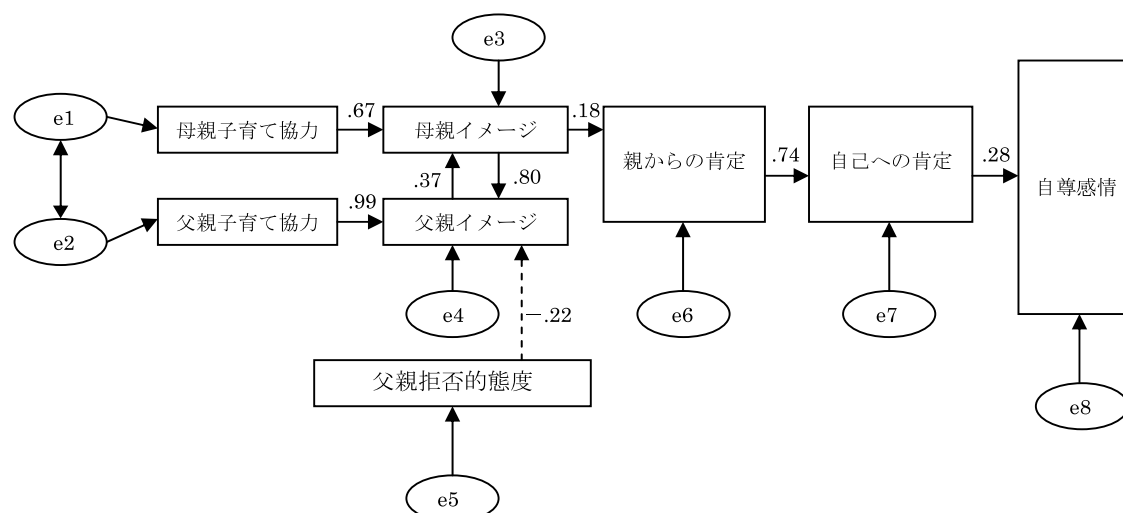
1) 因子分析の結果

自尊感情についての因子分析（最尤法, *promax* 回転）の結果, 8 項目「もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」は因子負荷量が低かったため除外した。再度, 因子分析を行ったところ固有値が急激に落ちる手前まで, 因子負荷量が .40 以上という基準から, 原著と同様に単因子構造であると判断された（寄与率 (%) = 43.81, *cronbach* の α 係数 = .85）。子育てにおける協力についての因子分析（最尤法, *promax* 回転）でも, 父親, 母親ともに, 同様の基準から, 原著と同じ単因子構造が確認された（父親: 寄与率 (%) = 35.86, *cronbach* の α 係数 = .83, 母親: 寄与率 (%) = 31.96, *cronbach* の α 係数 = .86）。次に, 父親, 母親イメージの項目に因子分析（最尤法, *promax* 回転）を施した結果を示す（Table 2）。同様の基準から, 単因子構造であると判断された（父親: 寄与率 (%) = 57.09, *cronbach* の α 係数 = .89, 母親: 寄与率 (%) = 47.89, *cronbach* の α 係数 = .87）。父親, 母親の言葉かけについての拒否的態度の項目に因子分析（最尤法, *promax* 回転）を行った結果を示す（Table 3）。同様の基準から, 単因子構造であると判断された（父親: 寄与率 (%) = 48.21, *cronbach* の α 係数 = .94, 母親: 寄与率 (%) = 48.15, *cronbach* の α 係数 = .93）。自己への肯定, 親からの肯定を併せて, 各変数間の相関を示す（Table 4）。

ここで, 自尊感情, 自己への肯定, 親からの肯定について, それぞれの変数で調査協力者を高群, 低群に分け, 別の変数の得点を比較することも考えたが, 結局, 変数間の相関関係を検討していることになるため, 除外することとした。

2) パス解析の結果

予測モデル（Figure 1）の検討を行うため, 自尊感情を目的変数とする一連の重回帰分析（ステップワイズ法）を実行し, 相対的影響について確認した。結果では, 自尊感情には自己への肯定が正の影響を（標準化 $\beta = .35$, $p < .01$ ）, 母親イメージが正の影響を（標準化 $\beta = .16$, $p < .05$ ）それぞれ及ぼしていることなどが確認された（調整済み $R^2 = .18$, $p < .01$ ）。



GFI=.976 AGFI=.944 CFI=.975 RMSEA=.069 chi square (df)=32.867(19) $p=.001$
 正の影響（実線） 負の影響（点線） 有意水準（5%）以下の矢印は削除済み。

Figure 2. 青年期女子の自尊感情

これらの手順を踏み、有意な関係が得られたパスを設定したモデルを作成し、全てのパスが5%水準で有意であり、モデルの適合度を検討した（GFI=.931 AGFI=.896 CFI=.928 RMSEA=.070 $\chi^2(19)=34.867$, $p=.001$ ）。しかし、親からの肯定と自己への肯定に個々にパスを引くよりも、親イメージから、親からの肯定→自己への肯定に修正したほうが、モデルの適合度が増加されたので、再度分析を試みた。適合度は増加し、いずれのパスも有意であった（GFI=.976 AGFI=.944 CFI=.975 RMSEA=.069 $\chi^2(19)=32.867$, $p=.001$ ）。これ以上の改善は難しいと考え、このモデルを採用することとした（Figure 2）。父親、母親の子育て協力は父親、母親イメージにそのまま影響し、父親イメージには、父親拒否的態度が負の影響を及ぼしていた。しかし、母親拒否的態度からの影響は見られなかった。さらに、父親、母親イメージでは、母親のみ、親からの肯定に影響し、それは、自己を肯定することにつながり、自尊感情に影響していた。父親については、母親のような自尊感情につながる影響は見られなかった。

IV. 考 察

本研究では、青年期女子から見た父親・母親の子育てにおける協力、養育態度へのイメージ、親からの言葉かけ、親からの肯定、自己への肯定を変数として青年期女子の自尊感情への影響を明らかにするため、予測モデルを設定し、その因果関係の検討を試みた。

結果、「わたしを育てることについて、父親／母親は、母親／父親に相談している」、すなわち、自分を育てるために父親と母親は協力し合っていると考えている青年期女子は、父親、母親、それぞれに「頼もしい」「尊敬できる」などの肯定的な養育態度イメージを持っていた。この養育態度へのイメージだが、父親イメージと母親イメージが互いに補完し合うように影響を及ぼしているこ

とから、母親イメージは単独で青年期女子に評価されるのではなく、父親イメージとより合わさって評価されることが明らかにされた。また、母親には見られなかったが、父親の言葉かけに「そのような言い方は冷たい」など、父親の態度は拒否的ではないと受けとめていればいるほど、父親に肯定的な養育態度イメージをもつことが認められた。父親、母親の養育態度へのイメージは、一見、母親のみが影響し、親からの肯定となり、それが自己を肯定し、青年期女子の自尊感情を押し上げているのだが、そこには父親の影響が存在していることが確認された。

整理すると、私の母親は頼もしい、尊敬できる親だと考えている青年期女子は、父親についてのイメージもよく、その上で親は肯定的に私を受け止めている、親から良い子だと思われる、という認知となり、それが自己肯定につながり、青年期女子の自尊感情を高める要因になっていることが明示された。この知見は福田ら⁶⁾の見解と合致する。

よって、本研究における青年期女子の自尊感情には、仮説1「父親・母親の子育て協力が父親・母親の養育態度へのイメージを媒介し影響する」は、母親の養育態度へのイメージからの影響が確認されたため、母親のみに採択された。仮説2「父親・母親の子育て協力が父親・母親の拒否的態度を媒介し影響する」は影響が見られなかったため棄却された。仮説3「父親・母親の拒否的態度が父親・母親の養育態度へのイメージを媒介し影響する」は、父親の拒否的態度からの影響が確認されたため、父親のみに採択された。仮説4「親からの肯定、自己への肯定が影響する」は、母親に頼もしいという養育態度イメージを持っている場合、親から肯定されていると考える傾向にあり、それは青年期女子の自らの肯定につながり、自尊感情を高めていた。仮説4は、母親と娘である青年期女子の関係にのみ採択された。

まとめると、青年期女子の自尊感情は、娘が勝手に自分ひとりで構築していくのではなく、必ず、同性である母親の自分への評価を経由して、自己評価するという構造が、本稿において実証された。その際、青年期女子の同性である母親の養育態度への肯定的イメージは、母親のみで評価されるのではなく、父親の養育態度へのイメージを伴い評価されていることも明らかにされた。青年期女子の自己評価は、同性の親である母親の影響が想像以上に強く作用しており、その母親の影響には父親の存在があることを忘れてはならないという結果であった。これは、伊藤¹¹⁾の摂食障害患者の家族関係における母親と娘の関係についての見解と一致する。

本研究では、「同性の親」である母親の養育態度へのイメージが青年期女子の自尊感情に大きく寄与していることが明らかにされた。しかし、今回の結果では、母親の養育態度へのイメージと父親の養育態度へのイメージは互いに補完する影響を及ぼしているため、父親からの直接的な影響が見られなくとも、父親の養育におけるサポートは、母親の養育イメージを肯定的に高めるために重要な要因であることが認められた。そのため、青年期の自尊感情を検討するには、家族全体としての凝集性や居場所感なども関連させて、父親、母親のそれぞれの影響を考えていかなければならない。

今後は、子どもの性別も考慮した、青年期前期、中期にあたる中学生、高校生など、より幅広い年齢層での調査を行い、現在の生活環境、生活経験等も変数に組み入れた調査が必要であろう。次世代を担う子どもたちの心身の成長を見守るべく、家庭、学校、地域社会における連携を密にし、一人ひとりの子どもの心理、行動に向き合う指針が待たれる。

付記：本研究は、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科（保健養護専攻）に提出した卒業論文（2009年度）に加筆・修正したものです。本論文の一部は、2009年9月、日本応用心理学会第76回（九州大学）にて発表しました。

参考文献

- 1) Crawford, T.N. Cohen, P. Midlarsky, E. & Brooks, J.S.: Internalizing symptoms in adolescents-Gender differences in vulnerability to parental distress and discord. *Research on Adolescence*, **11**, 95-118 (2001)
- 2) 平石賢二：青年期における自己意識の発達に関する研究（Ⅱ）－重要な他者からの評価との関連. 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科, **40**, 99-125 (1993)
- 3) 平田裕美：父親の青年への関わり行動尺度の作成及び信頼性、妥当性の検討－青年期前期の子どもをもつ父親を中心として. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 人間文化論叢, **3**, 293-301 (2001)
- 4) 平田裕美：青年期前期の子どもに対する父親の関わり：分類と特性. 家族心理学研究, **17**(1), 35-54 (2003)
- 5) 平田裕美：父親の養育行動と高校生の子どもの精神的健康－母親の養育行動との直接比較. お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」平成 15 年度公募研究成果論文集, **2**, 71-81 (2005)
- 6) 福田汐里・菱川匡子・二宮やよい・花木寿子・西村佑紀・向井智子・高嶋千恵美・垣内 瞳・荒井秋恵・奥野友紀子・黒木美江：前思春期から思春期にかけて変化する親子の愛着関係と自己イメージ及びその関連要因について. 金沢大学 学長研究奨励費研究結果論文集, **3**, 74-79 (2007)
- 7) 市毛 睦・大河原美以：親のよい子願望が子どもの自尊感情に与える影響－親への依存欲求・独立欲求に注目して. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, **60**, 141-158 (2009)
- 8) 井上正明・小林利宣：日本における SD 法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観 教育心理学研究, **33**, 253-260 (1985)
- 9) 伊藤正哉・小玉正博：自分らしくある感覚（本来感）と自尊感情が well-being に及ぼす影響の検討. 教育心理学研究 **53**, 74-85 (2005)
- 10) 伊藤美奈子：女性の生涯発達とアイデンティティ. 個人と社会という観点からみた成人期女性の発達（岡本祐子 編著）, p87-112, 北大路書房, 京都 (1999)
- 11) 伊藤美奈子：臨床. 心理学入門－こころの仕組みを理解する（平田裕美・伊藤美奈子 編著）, p120, 建帛社, 東京 (2010)
- 12) 伊藤裕子：青年期女子の性同一性の発達－自尊感情、身体満足度との関連から. 教育心理学研究, **49**, 458-468 (2001)
- 13) 葛西真記子・永尾修一：中学生の自尊感情・規範意識と親子関係との関連性. 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要, **19**, 25-34 (2004)
- 14) Kelly, J.B.: Children's adjustment in conflicted marriage and divorce- A decade review of research. *American Academy of Child and Adolescence Psychiatry*, **39**, 963-973 (2000)
- 15) 北村琴美：過去および現在の母娘関係と成人女性の心理的適応性－愛着感情と抑うつ傾向、自尊感情との関連. 心理学研究, **79**(2), 116-124 (2008)
- 16) Krishnakumar, A. Buehler, C. & Barber, B.K.: Youth perceptions of conflict, ineffective parenting, and youth problem behaviors in European-American and African-American families. *Social and Personal Relationships*, **20**, 239-260 (2003)
- 17) Lamb, M.: Forgotten contributors to child development. *Human Development*, **18**, 245-266 (1975)
- 18) 森下正康：子どもの社会的行動の形成に関する研究－同一視理論とモデリング理論からのアプローチ. 風間書房, 東京 (1998)
- 19) 森田洋司：不登校－その後 不登校経験者が語る心理と行動の軌跡. p132, 教育開発研究所, 東京 (2003)
- 20) 長津美代子：家族の個別化・凝集性と中学生の自尊感情. 日本家政学会誌, **52**(11), 1069-1082 (2001)
- 21) 名取洋典：指導者のことばかけが少年サッカー競技者の「やる気」に及ぼす影響. 教育心理学研究, **55**, 244-254 (2007)
- 22) 横湯園子：ひきこもりからの出発 あるカウンセリングの記録. p13, 岩波書店, 東京 (2006)
- 23) Roberts, J.E. Gotlib, I.H. & Kassel, J.D.: Adult attachment security and symptoms of depression-the mediating roles of dysfunctional attitudes and low self-esteem. *Personality and Social Psychology*, **70**, 310-320 (1996)

- 24) Roberts, J.E. & Monroe, S.M.: A multidimensional model of self-esteem in depression. *Clinical Psychology Review*, **14**, 161-181 (1994)
- 25) Seibel, F.L. & Johnson, W.B.: Parental control, trait anxiety, and satisfaction with life in college students. *Psychological Report*, **88**, 473-480 (2001)
- 26) Skultey, K.M. & Whitbourne, S.K.: Gender differences in identity processes and self-esteem in middle and later adulthood. *Women and Aging*, **16**, 175-188 (2004)
- 27) 菅原ますみ：養育者の精神的健康と子どものパーソナリティの発達 ―母親の抑うつに関して. 性格心理学研究, **5**, 38-55 (1997)
- 28) 菅原ますみ・八木下暁子・詫摩紀子・小泉智恵・瀬地山葉矢・菅原健介・北村俊則：夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連 ―家族機能および両親の養育態度を媒介として. 教育心理学研究, **50**, 129-140 (2002)
- 29) 氏家達夫・二宮克美・五十嵐 敦・井上裕光・山本ちか・島 義弘：夫婦関係が中学生の抑うつ症状におよぼす影響 ―親行動媒介モデルと子どもの知覚媒介モデルの検討. 発達心理学研究, **21**(1), 58-70 (2010)
- 30) 矢吹孝志：子どもは親を選べない. p88, 幻冬舎ルネッサンス, 東京 (2007)
- 31) 山岸明子：女子青年がもつ現在の対人的枠組みと生育史に記述された母親及び友人との関係の質との関連. 発達心理学研究, **15**, 195-205 (2004)
- 32) 山本真理子・松井 豊・山城由紀子：認知された自己の諸側面の構造. 教育心理学研究, **30**, 64-68 (1982)
- 33) 安原久美子：家族機能認知が大学生の精神的健康に与える影響. 日本応用心理学会 第76回大会発表論文集, p120. (2009)
- 34) Zahn-Waxler, C.: Parental depression and distress- Implications for development in infancy, childhood, and adolescence. *Developmental Psychology*, **31**, 347-348 (1995)